

アレルギー疾患 医療従事者等研修会 参加者募集

6つの分科会にてアレルギー疾患に関して専門的な知識を有する医師などの監修のもと医療者により、最新の科学的知見に基づいた適切な医療について研修を行います



会 期 講義 **2025年2月23日(日)**
13:00~16:10 (12:30開場)

開催形式 神戸大学医学部附属病院 医学部会館3階 シスメックスホール

開催形式 対面開催 ◀◀◀可能な限り電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。

対 象 アレルギー診療に興味のある医療従事者等

研修当番病院 神戸大学医学部附属病院（兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院）

分 科 会	講 義（質疑応答含む）
アレルギー総論	2025年2月23日(日) 13:00~13:05
講義▶気管支喘息の病態と治療 質疑▶内科領域	13:05~13:30
講義▶小児の気管支喘息への対応 質疑▶小児科領域	13:35~14:00
講義▶アレルギー性鼻炎との付き合い方 質疑▶耳鼻咽喉科領域	14:05~14:30
講義▶皮膚アレルギー疾患（アトピー性皮膚炎） 質疑▶皮膚科領域	14:45~15:10
講義▶吸入薬と自己注射薬の指導 質疑▶薬剤・看護領域	15:15~15:40
講義▶食物アレルギーにおける食事管理 質疑▶食物アレルギー領域	15:45~16:10

申込方法 申込フォーム <https://forms.gle/EpXau7qYwCuhuUQH7>

または右記QRコードよりお申し込みください。
申し込み時に入力したメールアドレス宛に、研修会の詳細なご案内を後日お送りします。

申込期限 2025年1月31日（金）



分科会講義概要

症例で分かりやすく解説 ～気管支喘息の治療～

講師 神戸大学医学部附属病院 呼吸器内科 診療科長補佐 永野 達也

気管支喘息の治療の基本は吸入ステロイドを含む吸入療法です。たくさんの製剤からどの製剤を選んだら良いのか、副作用対策をどうしたら良いのか、実際の症例を提示しながら分かりやすく解説していきます。また、最近は行われなくなってきているアミノフィリンの点滴、一方で新しく登場し、多くの重症喘息患者さんの切り札となっている生物学的製剤という注射薬についても紹介します。

小児の気管支喘息への 対応

講師 神戸大学医学部附属病院 小児科 山本 暢之

小児期に見られる喘鳴性疾患は気管支喘息だけではなく、また患児本人が症状を適切に訴えられないことから、保護者への教育も重要となります。本講演では、小児の気管支喘息への対応と治療、長期管理について紹介します。

アレルギー性鼻炎と その付き合い方

講師 神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 由井 光子

アレルギー性鼻炎の罹患数は年々増加しており、今では日本人の2人に1人がかかっていると言われています。くしゃみ・鼻水・鼻づまりの3大症状によって日常生活にも悪影響を及ぼしますが、完全に治すことは難しく、うまく付き合っていくことが大切です。

この研修会では、アレルギー性鼻炎について知り、治療法や生活の工夫について学習します。

アトピー性皮膚炎治療の新時代 ～炎症性皮膚疾患専門外来の取組も含めて～

講師 神戸大学医学部附属病院 皮膚科 福本 毅

神戸大学医学部附属病院皮膚科では、2023年より炎症性皮膚疾患専門外来を開設し、アトピー性皮膚炎(AD)の診療を行っています。ADは、皮膚科領域において罹患率が高く、小児から成人に至るまで広範に見られる疾患です。ADの病態は、皮膚バリア機能障害、アレルギー性炎症、かゆみが相互に作用し形成されます。近年、ADに対する全身療法が続々と開発・導入されており、治療選択には患者の背景や症状の変化を考慮し、長期的な視点が求められます。本講座では、最適な治療提供を実現するために必要な治療選択の考え方やアプローチについて、最新の知見を交えながらお話しいたします。

アレルギー疾患に使用される薬の 患者指導と注意事項～吸入薬と在宅自己注射～

監修 神戸大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤部長 矢野 育子

講師 神戸大学医学部附属病院 薬剤部 副部長 大本 暢子

アレルギー疾患に対する治療薬の効果が発揮され、より良い日常生活を送っていただくためには、患者さん自身に薬を正しく使用していただくことが重要です。そのためには、患者さんに薬の使用方法をしっかりと習得していただくことが必要不可欠です。この講座では、吸入薬のデバイスや在宅自己注射の特徴を知り、基本的な操作方法、患者指導の注意点について学習します。

食物アレルギーにおける 食事管理

監修 神戸大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科、栄養管理部長 高橋 路子

講師 神戸大学医学部附属病院 栄養管理部 尾上 弘美

食物アレルギーは、食物アレルゲンに対する過敏な免疫反応によって引き起こされ、多彩な臨床症状を示す疾患です。食事管理では、安全性を確保したうえで、適切な栄養素の確保およびQOLの維持を図るため、「正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去」を行う必要があります。今回は、食事管理の基礎知識から実践におけるポイントについて紹介します。